



## 日本音楽舞踊会議オペラコンサート近年史 中島 洋一

私の記憶によると、2005年12月にオペラコンサートを開催する以前は、本会でオペラコンサートと云えるものは、1992年6月18日にルーテル市ヶ谷で行われた声楽部会のオペラ・コンサートで『カルメン』を取り上げたのが最後だったと思います。

ハイライト公演で、カルメン：金子恵美子(M.S.)、ドン・ホセ：土屋清美(Ten.)、エスカミリオ：佐藤光政(Bar.)、ミカエラ：新川比呂子(故人)：(Sop.)という配役でした。この公演の主催は声楽部会でしたが、声楽部会員だけでなく、作曲部会員だった桑原洋明氏や正岡泰千代氏なども合唱メンバーとしてステージに上がり、楽しく和やかな舞台となった記憶があります。その公演の企画者は佐藤光政氏と故石野富士江さんで、当時、会の事務局長(現理事長)だった私は、お客の一人として鑑賞する役割に徹しました。なお、その時舞台に立った佐藤光政氏は、2005年以降今回を入れて5回開催されるCMDJオペラコンサートにおいて、いずれも司会役兼歌手として公演の中心として活躍されておりますし、土屋清美氏も2005年に十八番のドン・ホセ役を演じ、昨年はプッチーニなどを歌い、その美声は健在です。

しかし、90年代後半以降、様々な事情から、若い声楽会員が退会して行き、オペラコンサートの企画を立てるのが困難な状況が続きました。

21世紀に入り、2003年から若い音楽家の発掘を目的としたフレッシュコンサートがスタートしました。このコンサートに出演した若い声楽家達にコンサート参加を勧誘することで、オペラコンサートの開催がなんとか可能となりましたので、2005年12月に13年振りに、『愛、憎しみ、血の惨劇!』という、サブ・タイトルのもと、愛にまつわる殺人を主要な要素としたオペラを集め、オペラコンサートを開催いたしました。

それから1年9ヶ月を経た2007年9月14日に第2回目のオペラ・コンサート『愛のたくらみ』が開催され、2008年、09年、今年と、9月～10月に、毎年開催されるようになりました。その間、2008年からはフレッシュコンサートに併せ、若い翼コンサートも開設され、今は、若い会員が増加傾向にあり、オペラコンサートを継続的に開催する条件が次第に整ってまいりました。また2005年から昨年までの4回は、『愛、憎しみ、血の惨劇!』、『愛のたくらみ』、『愛と夢の世界へのお誘い』、『愛の喜びと悲しみ』というように、サブタイトルの冒頭に“愛”の文字が使われました。今年“愛”の文字を使わずに『音楽と笑い』というサブタイトルをつけましたが、内容的には2007年と同様、喜歌劇の演目を中心にした公演となっております。

前述いたしましたように過去5回の公演において、佐藤光政氏にはいつも司会役を引き受けていただいておりますし、企画の方はフレッシュコンサートとの関係もあり、私がずっと続けて担当しております。

そして今は、経験豊かで指導力のある佐藤光政氏、島信子氏の指導のもと、若い声楽家達が熱心に練習に取り組んでおり、ベテランの力と若い力の重なり合いがよい相乗効果をもたらし、どんどん力が蓄えられて行く時期にあると思います。今年の公演においても、その成果が表れ、まだまだ未熟さを残すものの、ご来場いただいたお客様にそれなりに楽しんでいただける舞台を提供出来るものと自負しております。

そして、さらに力が蓄えられた数年後には、もっと大きな公演が出来るのではないかと大きな希望を抱いております。

どうか、出来るだけ大勢の方々に会場に足を運んでいただき、楽しんでいただくとともに、叱咤激励をしていただきたいと思います。



## ▼ オペラコンサート出演者からのメッセージ ▼

### 秋山 来実（あきやま くろみ：ソプラノ）



この度は、オペラコンサートに出演させていただけること、とても嬉しく思います。

私は今回のコンサートで、オーベールの「フラ・ディアボロ」からアリアを、演奏させていただきます。

中島先生からご紹介いただき、この作品を初めて知ることができました。あまり耳馴染みのない作品ですが、とても聴きやすく、素敵な作品です。ぜひお楽しみください！

### 大久保 雅代（おおくぼ まさよ：ソプラノ）



この度は、当コンサートに出演する機会をいただき、有り難うございます。

前半では、『こうもり』のアデーレと『ラ・ボエーム』のムゼッタのアリアを演奏させていただきます。どちらもヒロインではないキャラクターですが、ストーリーの中を自由奔放に動き回る力強さが印象的な役どころだと思います。天真爛漫でコケティッシュなふたりの魅力を、皆さまにお伝えできるようにがんばります。】

### 太田 智子（おおた さとこ：ソプラノ）



普段は、殆どソロの活動ですが、縁あって今回のアンサンブルに参加させて頂くことになりました。

歌を歌うだけでなく、動きを合わせるのも、普段なかなか味わえない 楽しみのひと時だと実感しています。

今回の演奏会を通じて、音楽の楽しさ、素晴らしさを多くの方に感じて頂けるようにできたら幸いです。

### 齊藤 希絵（さいとう きえ：ソプラノ）



今回は"喜歌劇"ということで、『天国と地獄』より、エウリディーチェのアリアと、『メリーウィドウ』のハンナ役に挑戦させていただきます。

『天国と地獄』のエウリディーチェは地獄の神様と不倫中。現世の夫には飽き飽きしていて、ついには地獄への逃避行に成功！！のハズでしたが…

『メリーウィドウ』は大人の恋の駆け引きが見所のひとつです。素直になれないハンナとダニロ。大人の恋愛を知っているヴァランシェンヌ。そこには膨大な遺産と国の存亡も絡んで… 歌あり踊りありの楽しいオペレッタの世界へどうぞ。

## 佐藤 光政（さとう みつまさ：バリトン&司会）



“ひと言メッセージ” バリトン：佐藤光政

今回も、前半は司会進行役を務めさせていただき。後半は“メリー・ウィドウ”のダニロ役を歌わせていただきます。これがまた、結構大変な歌ではありますが、世代の異なる若い人達と一緒に歌える事は、新鮮な、嬉しい事でもあります。

皆さん、どうぞ宜しく。

## 中山 弘一（なかやま こういち：バリトン）



この度は佐藤光政先生をはじめ、素晴らしいキャストや演出等の皆様に囲まれて演奏出来ることを心より感謝致します。

今回は私が今まで演じてきた役とは違い、コミカル…というか三枚目の役に初めてチャレンジさせていただきます。公使でお堅く威厳のある面と、気が短く女好きという、多面性の切り替えが非常に難しい役どころです。況してや、かの有名なメリーウィドウということもあり緊張する面も多々御座いましたが、共演させていただいた皆様などのご指導もあり、面白いものが出来上がったのではないかと思います。まだまだ分相応では御座いませんが、楽しんでいただけると幸いです。

## 長谷川 実美（はせがわ みみ：ソプラノ）



『この度オペラコンサートの「メリー・ウィドウ」ヴァランシェンヌ役で出演させていただきます。実は三年前の「愛のたくらみ」コンサートの際にも同じ役で出演させていただいています。今回は島先生が演出して下さい、前回とはまた違う素敵な舞台になっています。当日は皆さまに楽しんでいただけるよう精一杯歌わせていただきます！』

## 花田 愛（はなだ あい：ソプラノ）



この度、オペラ公演に出演させて頂けますことを、心から感謝申し上げます。また、このような機会を与えて下さり、ご指導くださいました先生方、温かく見守り支えて下さいました先生、共演者の皆さん、スタッフの方々に、心から感謝と、御礼申し上げます。

一部の「フラ・ディアボロ」、二部の「メリー・ウィドー」共に、初めて取り組む作品であり、特に、「フラ・ディアボロ」に関しましては、資料や音源がほとんど無い中で、試行錯誤しながら取り組ませて頂きました。

また、「メリー・ウィドー」では、演出の島先生、ピアニストの亀井先生、一緒に舞台に立たせて頂きます佐藤先生のもと、共演者の皆さんと、限られた時間の中で、協力し支えあいながら一つの作品を作り上げていくことで、一人の力ではなし得ない、かけがえのない経験をさせて頂きました。「メリー・ウィドー」の美しい音楽と華やかな世界を、お楽しみ頂けたら、幸いです。

当日は、会場に足を運んで下さる皆様が、楽しいひと時をお過ごし出来ますよう、感謝の気持ちを持って、舞台に立たせて頂きたいと思っております。

## 宮本 英一郎 (みやもと えいいちろう : テノール)



「音楽と笑い」～喜歌劇を中心に～と題しました今回のプログラムの後半、メリー・ウイドウに出演いたします。普段「音楽」はまじめに歌いますが、「笑い」にことに関してはセンスがないというか…おっと。

カミーユの情熱は美しいメロディにも表れていて、テノール名利につきるばかりです。

物語を知ってようが知らなかろうが楽しめるのは美しい音楽があればこそですが、どうにもおかしき人間模様も舞台でお見せできればと思います。

-----

## 湯川 亜也子 (ゆかわ あやこ : メゾ・ソプラノ)



この度は、このような貴重な機会を頂きまして有難うございます。企画担当でいらっしゃる中島洋一先生、そして恩師であり、当会アドバイザーでいらっしゃる秋山理恵先生に、この場をお借りして心から御礼を申し上げます。今回を含め、当会のオペラコンサートへ出演させて頂くのは、3度目になります。毎回異なるテーマに沿ったプログラムで展開されておりますが、今回は喜歌劇を中心に「音楽における笑い」を考えてみようというものです。一口に笑いと言っても、そこには色々な笑いが含まれていますが、「笑う」と

いう行為は一人では生み出せないものだと思います。笑いが生まれる時、そこには自分以外の人が関わっていたり、笑いを引き起こす要因が必ず存在しています。そして、その笑いは誰かと共有できることで、一層の喜びや幸せに感じられるものなのではないかと思えます。人と関わるからこそ新しい発見があったり、初めて築いていけることがあったり・・・そのような事を、一人では決して成り立たない「オペラ」を通して、先生方や出演者の方々、スタッフの方々と共に創り上げていく過程で学ばせて頂いた事は、生涯の財産です。演奏会当日には、それまで積み重ねてきたものが一層輝くよう、またこれからより一層発展していけるよう、取り組ませて頂きたいと思えます。

-----

## 亀井 奈緒美 (かめい なおみ : 伴奏ピアノ)



今年も、このコンサートの全伴奏をさせていただきますこと感謝申し上げます。

今年は「音楽と笑い」。このコンサートにふさわしく明るく、前向きな歌手の面々が勢ぞろいしました。お客様に喜んで頂ける素敵な公演にするために、全力でお支えしようと思っております。

この場を借りまして、ご指導くださいました先生方、そして一緒に曲を作ら上げたキャストの皆様本当にありがとうございました。

-----

## 島 信子 (しま のぶこ : 演出)



今回は お馴染みのオペレッタ『メリーウイドウ』の日本語版。かなりの短縮版になっているため ストーリーの「編曲」ならぬ「切り貼り」があるが、それもまた手軽で楽しい。

若い歌手たちを交えての魅力ある舞台、これから伸びるだろう若手たちに期待してのこの企画、前半のコンサートと合わせてお楽しみ頂ければ幸いです。

# 音楽現代

2010年9月号 定価840円

- ♪特集 作曲家ベイシックシリーズ6
  - ・ショパンのピアノ作品  
～全ジャンルの魅力と聴きどころ
  - ・特別対談 仲道郁代×青澤唯夫
  - ・特別インタビュー 小山実稚恵が語るショパン
- ♪特別企画 今秋の来日演奏家(その2)
- ♪カラー口絵
  - ・東京二期会「ファウストの劫罰」
  - ・新国立劇場「鹿鳴館」
  - ・東京都交響楽団「売られた花嫁」
  - ・関西二期会「ジプシー男爵」
- ♪連載 「ショパンのポーランド」
- ♪インタビュー  
アントニオ・パッパーノ、中村恵理  
ザ・キングズ・シンガーズ  
ヴェーラ弦楽四重奏団、他

〒111-0054 東京都台東区鳥越 2-11-11  
TOMYビル 3F

「喜歌劇 comic opera」とは、軽い、娯楽的な音楽劇に対して使われる言葉である。「喜」や"comic"という言葉からは、劇中に「笑い」を期待する要素があると連想するのが、当然であろう。しかし、喜歌劇自体には、「笑い」と結びつくような明確な定義づけはない。喜歌劇と分類されたオペラには、オペラ・セリアやグランド・オペラとの相違点がほとんど見当たらないものもある。どこが"comic"なのか、どこに「笑い」があるのか全くわからないものもある。それどころか逆に悲劇的な内容を持つものもある。特に、フランスのオペラ・コミックは、数ある喜歌劇のなかでも、その定義づけが曖昧なオペラである。

本稿では、喜歌劇の簡単な歴史を辿りつつ、そのなかでも特に定義の曖昧なオペラ・コミックに焦点を当てて、その理由を探っていきたい。

## 喜歌劇の誕生

オペラは、バロック時代の宮廷祝典として生まれ、ギリシャ神話や古代の英雄を題材としていた。これらは「オペラ・セリア」として長く定着していたが、18世紀も後半に入ると、市民階級の聴衆からは必ずしも好意的に受け入れられなくなってきた。その理由として、内容があまりにも現実離れしていたことや、筋書きや構成のマンネリ化もあった。また、上演に莫大な経費がかかること、特にカストラートが当時の文化人の1000倍もの高給を得ていたことへの不満も大きくなってきていた。

一方、カストラートを使わず、簡単な舞台装置で上演できる喜歌劇は、自由な精神を表現するオペラとして人気があった。上演にかかる経費も聴衆の納得のいくものであ

った。喜歌劇は、オペラ・セリアの派生的なもののように受け取られがちだが、ある種、時代の要請で生まれてきたジャンルでもあった。神々や古代の英雄ではなく、自分たちと同じ視点に立った人物が舞台の中心に置かれることにより、人々はオペラをより身近に楽しむことができるようになった。

### 喜劇のなかの「悲劇」

喜歌劇の発展に大きく寄与したのが、モーツァルトの数々のオペラである。モーツァルトは、当時、滞在していたウィーンにおいて、オペラ・セリアがそれほど好まれず、上演時間の長いオペラ・ブッフア（喜歌劇）が好かれていることを十分承知していた。そして、彼のパトロンであったヨーゼフ二世も喜歌劇好きという後押しもあって、喜歌劇の創作に励んだ。

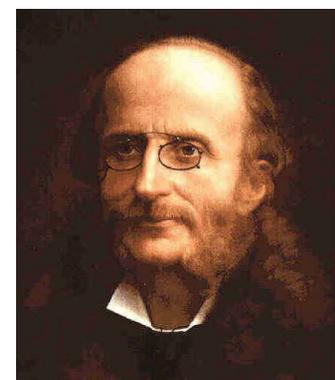


モーツァルト  
『フィガロの結婚』の舞台

モーツァルトの喜歌劇にある「笑い」とはどのようなものだろうか。モーツァルトお得意の下品な話で笑いをとることもあるだろうが、その他にも、劇中の男女のやりとりのなかで、相手をじらしたり挑発したり、といった駆け引きにコミカルな要素を盛り込むケースがある。しかし、ここで注目したいのは、喜劇と悲劇の両面性を持つ場面が、意外と多いことである。例えば、《フィガロの結婚》のなかで、結婚しようとしているスザンナに伯爵が嫉妬するシーンがある。この場面は、ある人からみれば滑稽であり、伯爵側からみれば悲劇である。どこで笑うか、どこをコミカルと受け取るか、多様な鑑賞ができるのがモーツァルトの喜歌劇の面白さでもあろう。

### 「困難に立ち向かう」オペラ・コミック

モーツァルトの喜歌劇は、フランスのオペラ・コミックから多少なりとも影響を受けて作られたものであったこともあり、本家フランスでも人気があった。フランスでは、パリ・オペラ座の東 400 メートルのところに喜歌劇専用の劇場が建てられており、1783 年からオペラ・コミック座としての運営が始まっていた。モーツァルトの喜歌劇が人気を集めていた 18 世紀末は、フランス革命期でもあり、政府の奨励により愛国の士気を高めるために、喜歌劇が数多く



喜歌劇を発展させた  
オッフェンバック

上演された。当時上演されていた喜歌劇は、喜劇的要素やパロディ的要素はそれほど重要視されず、逆境から主人公が力強く立ち上がるような筋書きも好まれた。舞台上で、火事、雪崩、地震や火山の噴火などを演出する、というスペクタクル的な要素を盛り込むことも稀ではなかった。そうした困難に立ち向かうことにフランスの精神と合い通じるものがあったようだ。すでにこれらのオペラ・コミックに「笑い」の要素は期待されていなかったと考えてもよいだろう。この時期のオペラ・コミックは、「グランド・オペラ以外の」すべてのオペラの受け皿的な名称として使われていた傾向もあった。

### 《カルメン》の登場と現在のオペラ・コミック

もはや名ばかりとなったオペラ・コミックであったが、1807年にナポレオンの政府がオペラ座とコミック座の使い分けを明確に決めたことにより、再び「コミック」としての要素に重点が置かれるようになった。しかしそれは一時的なもので、時代とともに、さらに形式面での独自性が失われていき、レチタティーヴォの代わりに語りと対話を用いるフランス・オペラの総称になっていった。そして、19世紀後半には、モーツァルトやグルックのオペラはもちろんのこと、ワーグナーの楽劇までもがコミック座で上演されることとなった。それぞれの上演の事情までは、今回追跡できなかったが、オペラの内容とは関係なく、スケジュールや予算の関係で、事務的にコミック座での上演が決まったものもあっただろう。安易な判断による上演、というより、むしろ「コミック座での上演」へのこだわりがなくなってきた証なのかもしれない。



しかし、オペラ・コミックを芸術作品へと高めるきっかけとなる作品が1875年に上演された。ビゼーの《カルメン》である。普仏戦争の終結とともに、オペラ・コミックの再興に乗り出した、当時のオペラ・コミック座監督カミーユ・デュ・ロクルが、ビゼーに作品を託し、仕上がったのが《カルメン》であった。下層階級の悲劇的な物語をリアルに描いたオペラであったが、初演時は、主人公のカルメンが舞台上で殺されるラストシーンに、聴衆たちが抵抗を示し、失敗作とみなされた。《カルメン》のリアリズムが評価されたのはそれから数年後のことであった。

その後のオペラ・コミックの作曲家たちは、アリアとレチタティーヴォを分けずに切れ目なく劇を進行させたり、実験的な作品にするために、「オペラ・コミック」の名称



# 《過去開催のCMDJオペラコンサートの記録》

オペラコンサート ～愛・憎しみ：血の惨劇～

日時：2005年12月2日（金）午後6時半開演／午後6時開場

会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

## 《プログラム》

### 1) PAGLIACCI Leoncavallo

『道化師』 レオンカヴァルロ 伴奏：亀井奈緒美  
道化師トニオの口上 “ごめん蒙りまして” 佐藤 光政

### 2) DON GIOVANNI Mozart

ドン・ジョヴァンニ モーツァルト 伴奏：亀井 奈緒美&藤川 志保（1曲）  
No.7 二重唱（ドン・ジョヴァンニ&ツェルリーナ）松浦 豊彦&渡辺 裕子  
“手を取りあって誓いを交わそう”  
No.12 アリア（ドン・ジョヴァンニ）“シャンペンの歌” 松浦 豊彦  
No.13 アリア（ツェルリーナ）“ぶって、ぶって！マゼット” 渡辺 裕子  
No.17 アリア（ドン・ジョヴァンニ）“セレナード” 松浦 豊彦  
No.18 アリア（ ） “この横町からあちらへ行け” 松浦 豊彦  
No.19 アリア（ツェルリーナ）“もしもあんたがおりこうさんに..” 渡辺 裕子  
No.25 アリア（ドンナ・アンナ）“いまも変わらずに愛する”  
矢数典子 伴奏 藤川志保

### 3) RIGOLETTO Verdi

リゴレット ヴェルディ 伴奏：亀井奈緒美  
No.9 アリア “麗しき御名”（ジルダ） 島 信子  
No.12 “あくまめ鬼め”（リゴレット） 水野賢司  
No.14 二重唱 “いつも教会へ..” 島 信子&水野 賢司

### 4) OTELLO Verdi

オテロ ヴェルディ 伴奏：北川葉子  
“柳の歌”、“アヴェマリア”（デズデモーナ） 金子 直美

### 5) CARMEN Bizet

カルメン ビゼー 伴奏：北川葉子&藤川志保（1曲）  
No.5 “ハバネラ”（カルメン:） 田辺 いづみ  
No.14 “闘牛士の歌”（エスカミリオ） 佐藤 光政  
No.17 “花の歌”（ドン・ホセ） 土屋 清美  
No.22 “ミカエラのアリア” 矢数典子 伴奏：藤川志保  
No.27 最後の二重唱 土屋清美&田辺いづみ

司会：佐藤 光政／企画・構成：中島洋一



## CMDJ2007年 オペラコンサート 『愛のたくらみ』～喜歌劇コンサート

日時：2007年9月14日（金）午後6時半開演／午後6時開場

会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

## 《プログラム》

1) オッフエンバック 『天国と地獄』より “ギャロップ”

電子オーケストラ＋合唱

**J. Offenbach** “ORPHÉE AUX ENFERS” ～ “Galop”

2) ロッシーニ 『セヴィリヤの理髪師』 (抜粋) 歌唱部伊語

**G. ROSSINI** “IL BARBIERE DI SIVIGLIA”

No.4 フィガロ (カヴァティーナ) “おいらは町のなんでも屋” 佐藤光政

No.7 ロジーナ (カヴァティーナ) “今の歌声” 村上貴子

No.9 二重唱 (フィガロ、ロジーナ) 佐藤光政、村上貴子

No.16 ベルタ (アリア) 太田智子

おまけ曲 (本番のお楽しみ) 太田智子

----- (小休憩) -----

3) J.シュトラウス 『こうもり』 (抜粋) 歌唱部独語

**J. STRAUSS** “DIE FLEDERMAUS”

No.1a 二重唱 (ロザリンデ、アデーレ) 金子直美、島信子

No.3 二重唱 (ファルケ、アイゼンシュタイン) 石川雄蔵、神林絃一

No.4 三重唱 (アイゼンシュタイン、ロザリンデ、アデーレ)

神林絃一、金子直美、島信子、

No.9 二重唱 (ロザリンデ、アイゼンシュタイン) 金子直美、神林絃一

No.10 アリア (チャルダッシュ) ロザリンデ 金子直美

No.11 アリア→合唱 石川雄蔵他→合唱

No.16 最後の合唱

----- (休憩) -----

4) レハール 『メリー・ウイドウ』 (抜粋) 日本語公演

**F. LEHÁR** “DIE LUSTIGE WITWE”

No.4 アリア “祖国のためなら” (ダニコ) 佐藤光政

No.5 二重唱 (ヴァランシエンヌ、カミュ) 長谷川実美、神林絃一

No.7 森の乙女の歌 (ハンナ) 島田祐子

No.8 二重唱「間抜けな騎兵の歌」(ハンナ、ダニコ) 島田祐子、佐藤光政

No.11 二重唱とロマンス (ヴァランシエンヌ、カミュ) 長谷川実美、神林絃一

第三幕はすべて演奏する

No.14 シャンソン (ヴァランシエンヌ (長谷川実美) + 合唱 (斉唱))

No.14 a 回想 (合唱)

No.15 二重唱 (ハンナ、ダニコ) 島田祐子、佐藤光政

No.16 大詰めの合唱 (ハンナ→ツェータ、ダニコ→合唱)

島田祐子→石川雄蔵→佐藤光政→合唱)

司会：佐藤 光政／演出：島信子／ピアノ：亀井奈緒美／企画・構成：中島洋一



## CMDJ 2008 年オペラコンサート 『愛と夢の世界へのお誘い』

日時：2008年9月21日(日) 午後4時開演／午後3時半開場

会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

## 《プログラム》

### 1) オペラアリアの楽しみ

モーツァルト 歌劇『ツァイアーデ』より “安らかにお休み、私のいとしい命よ”

Mozart [ZAIDE] ~ “Ruhe sanft mein holdes leben”

歌：山下 美樹 (ソプラノ) ピアノ伴奏：亀井 奈緒美

プッチーニ 歌劇「ボエーム」より “私の名はミミ”

Puccini [BOHÈME] ~ “Mi Chiamano Mimi”

歌：武田 麻衣 (ソプラノ) ピアノ伴奏：亀井 奈緒美

### 2) ヴェルディ 『椿姫』 より

Verdi “LA TRAVIATA”

① 乾杯の歌 (第1幕 第2景) 歌：佐野友美／加藤太朗、

② ああそは彼の人か～花から花へ (第1幕 第5景) 歌：佐野友美

③ ひとりきりじゃ面白くない、今の毎日は (第2幕 第1景) 歌：加藤太朗

④ プロヴァンスの海と陸 歌：佐藤光政

⑤ パリを離れて 歌：佐野友美／加藤太朗

配役：ヴィオレッタ：佐野友美(Sop.)／アルフレード・ジェルモン：加藤太朗(Ten.)

ジョルジュ・ジェルモン：佐藤光政(Bar.)／ピアノ伴奏：亀井奈緒美

(休憩)

### 3) フンパーディンク 『ヘンゼルとグレーテル』 日本語公演

Humperdinck “H ÄNSEL UND GRETEL”

① 第1幕～第2幕

(休憩)

② 第3幕

配役：ヘンゼル(M.S.)：湯川亜也子／グレーテル(Sop.)：佐々木寿子

父親ペーター (Bar.)：佐藤光政／母親ゲルトルート(M.S.)：増田浩子

お菓子の魔女(M.S.)：花田愛

眠りの精(Sop.)：武田麻衣／露の精(Sop.)：山下美樹

お菓子の子ども達&天使達のパントマイム

児童合唱団 市川コーロ・バンビーニ／合唱指導&指揮：渡辺裕子

合唱出演者

赤木悠子、秋本伊織、秋本陽彩、東屋海来、石橋久瑠実、石橋果輪、磯貝智花

岩崎悠里、大橋奈莉、加藤未紬、菊池綾花、菊池侑梨伽、熊谷友希、倉島夏未

坂本安里紗、坂本芹佳、坂本光衣菜、佐藤春菜、増永優実、松原杏莉、服部泰河

服部響巳、渡辺せいら

リコーダー演奏：佐藤幸子／電子オーケストラサウンド制作：中島洋一

舞台美術制作 協力・指導：菅原順一

司会：佐藤光政／ピアノ：伴奏 亀井奈緒美／演出：島信子

制作：浦富美／舞台監督：橘川琢／企画・構成：中島 洋一



## CMDJ 2009 年オペラコンサート

### 『愛の喜びと悲しみ』

日時：2009年10月8日(木) 午後6時半開演／午後6時開場

会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

## 《プログラム》

### 【前半】

ドリーブ 歌劇『ラクメ』より “鐘の歌”

Delibes [Lakmé] ~ “Air des clochettes”

歌：齋藤 希絵 (ソプラノ)

サン＝サーンス 歌劇『サムソンとデリラ』より “私の心はあなたの声に花開く”  
Saint-Saëns [Samson et Dalila] ~ “Mon coeur s'ouvre á ta voix”

歌：湯川 亜也子（メゾ・ソプラノ）

グノー 歌劇『ファウスト』より Gounod [Faust] ~

“門出を前に” “Avant de quitter ces lieux” 歌：中山 弘一

“宝石の歌” “Air des bijoux” 歌：佐々木 寿子

ドニゼッティ 歌劇『愛の妙薬より』 “人知れぬ涙”

Donizetti [L'elisir d'amore] ~ “Una furtiva lagrima”

歌：土屋清美（テノール）

マスカーニ 歌劇『カヴァレリア・ルスチカーナ』より “ママも知る通り”

Mascagni [Cavalleria Rusticana] ~ “voi lo sapete, o mamma”

歌：高橋 順子（ソプラノ）

マスネー 歌劇『マノン』より Massenet [Manon] ~

“私まだぼんやりしているの” “Je suis encor tout étourdie”

“さようなら、私たちの小さなテーブルよ” “Adieu, notre petite table”

歌：小木曾 実奈（ソプラノ）

“私はどんな道でも女王のように歩きます!” “Je marche sur tous les chemins”

“マノンのガヴォット「みんなの声が愛の言葉をささやくとき」”

“Gavotte de Manon ‘Obéissons quand leur voix appelle’”

歌：齊藤 希絵（ソプラノ）

-----（休憩）-----

#### 【後半】

ビゼー 歌劇『真珠採り』より Bizet Les [pecheurs de perles] ~

“昔のように 夜の暗がりの中” “Comme autrefois dans la nuit sombre”

歌：佐々木 寿子（ソプラノ）

“嵐は静まり” “L'orage s'est calmé”

歌：中山 弘一（バリトン）

マスネー 歌劇『ウェルテル』より “手紙の歌”

Massenet [Werther] ~ “Air des lettres”

歌：湯川 亜也子（メゾ・ソプラノ）

#### プッチーニ（Puccini）の歌劇から

『ラ・ボエーム』より “さようなら”

「La Bohème」 ~ "Donde lieta usci al tuo grido d'amore"

『トスカ』より “歌に生き、愛に生き” 「Tosca」 ~ "Vissi d'arte, vissi d'amore"

以上2曲 歌：増子 あゆみ（ソプラノ）

『蝶々夫人』 “ある晴れた日に” 「Madama Butterfly」 ~ "Un bel di, vedremo"

歌：高橋 順子（ソプラノ）

『トゥーランドット』 “だれも寝てはならぬ” 「Turandot」 ~ "Nessun dorma!"

歌：土屋 清美（テノール）

アンコール “当日のお楽しみ” 歌：佐藤光政&出演者全員

司会：佐藤光政／ピアノ伴奏：亀井奈緒美（全演目）／企画・中島洋一

# 年末までの日本音楽舞踊会議関係のコンサート情報

(※太字、下線は 本会主催コンサート)

## 《9月》

30日(木) 深沢亮子リサイタル～シューベルトの夕べ～

恵藤久美子さん(ヴァイオリン)、堤剛さん(チェロ)をお迎えして【紀尾井ホール 19:00～】

## 《10月》

1日(金) 田澤(安田)明子(Vn.) & 飛松利子(P.) デュオ・リサイタル

【横浜みなとみらい(小)ホール】19:00～ 全席自由 一般：4000円、学生：2000円

3日(日) 広瀬美紀子ピアノリサイタル【白寿ホール 14:00～券：3500円】

曲：助川敏弥「友禅」…初演、北條直彦委嘱編曲=ピアソラ「天使のタンゴ組曲」  
「アディオスノニーノ」、他/後援：日本音楽舞踊会議

4日(金) クラシックと能楽 出演：北川靖子・北川暁子他

セルリアンタワー能楽堂 18:30～

9日(土) 深沢亮子 — コンサート【東金文化会館 14:00～】主催：東金文化会館

18日(月) 20世紀の以降の音楽とその潮流—様々な音楽の風景VII—

【すみだトリフォニー小ホール】18:45～

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con04.htm>

## 《11月》

4日(木) 声楽部会公演・ピアノ部会共催

～ショパン・シューマン生誕200年記念歌曲とピアノの夕べ～

【すみだトリフォニー小ホール】

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con05.htm>

5日(金) 第9回チャリティー・コンサート～岸田袈裟さんを偲んで～

出演：八木宏子/太田恵美子他

【調布市グリーンホール】19:00～

入場料 一般：2500円、学生：2000円、小学3年生以下：無料

19日(金) 「第3回フランス歌曲・研究コンサート」

【中目黒GTプラザホール 開演19:00】(詳細未定)

25日(木) 上野優子ピアノリサイタル シリーズ Vol.1

バーバー：ソナタ第1番作品26ほか

【カワイ表参道コンサートサロンパウゼ、19時、一般3000円】

## 《12月》

2日(木) CMDJ若い翼によるコンサート3【すみだトリフォニー小ホール 19:00開演】

3日(金) 深沢亮子 日唄協会 クリスマス会 Schubert ピアノ5重奏曲「鱒」他

出演：深沢亮子と若手ソリスト達【ホテル・オークラ 18:00～予定】

15日(水) 深沢亮子—2台ピアノのコンサート 野原みどりさんと

主催：モーツァルト協会【東京文化会館 18:45～】

20日(月) 日本音楽舞踊会議主催：ピアノとヴァイオリンとチェロの夕べ

出演：深沢亮子、恵藤久美子、安田謙一郎

曲：モーツァルト：トリオ第2番 K496 他【音楽の友ホール 19:00～】

★ 編集後記 ★

今号は、昨年10月発行の第15号と同様、オペラコンサート特集号です。  
9月22日（水）に、すみだトリフォニーホールで公演される【CMDJ2010年オペラコンサート～笑いと喜び～喜歌劇を中心に～】の特集号です。

結局、今回も編集作業が遅れ、コンサート当日3日前の発行となりました。

2005年以来、“愛”の文字ではじまるサブ・タイトルを持つオペラコンサート（愛シリーズ）が4回続きましたが、今年は初めてサブタイトルから“愛”の文字を省きました。また、昨年は、オペラアリアだけのコンサートでしたが、今年は前半はオペラ・アリア、後半の演目は2007年のオペラコンサートで公演してご好評をいただいた、レハール作曲：『メリー・ウィドウ』を再演いたします。

しかし、演じる歌い手は半分以上変わっておりますし、台本、演出も前回とは変わっておりますので、前回の舞台をご覧いただいた方々にも、新たな興味をもって楽しんでいただけるものと思います。

今、日本音楽舞踊会議は、新しい会員が徐々に増え、世代交代が進んでおりますが、我々のような古い世代に属する人間も、まだまだ頑張らなくてはならないと思っています。今回のオペラ公演において成果を上げることが出来たとしたら、ベテランの佐藤光政氏、島信子氏の指導力によるところが大きいとは思いますが、その指導に応え、急速に上達して行く若い人達を見ていると嬉しくなります。

私は、前述いたしましたように、本年6月から機関誌『音楽の世界』の編集長としての仕事も加わり、電子出版部長としての仕事である、メールマガジン、ホームページの編集にまでなかなか手が廻らないのが現状ですが、このメールマガジンも、手作りのささやかなものですが、本会の新しいスローガン『文化創成！』の一翼を担う活動として、読者の方々とともに、育てて行きたいと願っております。

編集責任者：中島 洋一

メールマガジン版『音楽の世界』第17号

2010年9月19日 発行

発行：日本音楽舞踊会議 / 月刊『音楽の世界』

The CONFERENCE of MUSIC and DANCE, JAPAN

〒169-0075 新宿区高田馬場4-1-6 寿美ビル305号 TEL&FAX 03-3369-7496

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/> E-mail: [onbukai@mua.biglobe.ne.jp](mailto:onbukai@mua.biglobe.ne.jp)

編集責任者：中島 洋一

〒190-0031 東京都立川市砂川町 5-36-3

電話&FAX 042-535-3294 携帯電話 090-7904-1726

E-mail: [yoichi\\_n@wa2.so-net.ne.jp](mailto:yoichi_n@wa2.so-net.ne.jp)

※このメールマガジンの写真、画像データ、文書データの無断転載を禁じます。